

令和5年度 アンケートの結果と分析

昨年度12月上旬に実施したアンケート調査へのご協力ありがとうございました。

その結果をもとに、2月26日(月)に「学校関係者評価委員会」を開催し、委員の皆様と分析・検討を行いました。アンケート結果から見た傾向や特徴は下記のとおりです。委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、生かしていきたいと思っております。

アンケート結果の詳細につきましても、掲載します。よろしくお願ひいたします。

◎ 児童への質問で「満足できる」と認められる項目

・「学校の行事は楽しく、積極的に参加している」	⇒85.5%
・「授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている」	⇒82.2%
・「授業では、分からないことをていねいに教えてもらえる」	⇒81.2%
・「先生はわたしのよいところをみとめてくれている」	⇒81.7%
・「道徳の時間などを通して、命や仲間の大切さを学ぶことができる」	⇒86.0%

明るく素直で、物事に前向きに取り組める子が多い本校の児童の様子がよく表れていると思われまふ。二つ目の「友達の意見や感想をよく聞くようにしている」は、昨年度は「改善を要する」項目に入っていました。学校全体で心掛けて指導し、子どもたちもそれに応えた結果と受け止めております。

欠席も少なく、全体を通して、子どもたちは概ね良好な学校生活を送っていると考えまふ。

● 児童への質問で「改善を要する」と思われる項目

・「体育の授業や放課などで、積極的に体力づくり(運動)をしている」	⇒62.9%
・「進んで自分の意見や感想などを発表している」	⇒54.3%
・「自分が困ったり悩んだりしたときに、相談できる先生がいる」	⇒68.3%

新型コロナウイルス感染症が五類に移行され、本校においても体づくりの活動が昨年度より始まりました。運動に慣れ親しむことを目的とした「きらきらタイム」という名称で、週4日、学年ごとに実施しています。子どもたちの表情や様子からは、楽しく意欲的に取り組んでいることがうかがわれまふ。これがきっかけになり、今後さらに積極性が増してくることを願っています。

「聞く」活動に比べて、「話す」活動についてはまだ改善の余地があります。自分の思いや考えを積極的に伝えたい、伝えられる児童が増えるよう手だてを講じていきます。また、「相談できる先生がいる」の質問については、「あてはまらない」の回答が10.8%(R4は13.9%)でした。引き続き、子どもたちが相談しやすい雰囲気や環境づくりを丁寧に行っていきたいと考えています。

また、学校関係者評価委員の皆様からは、「あいさつについては、保護者や地域住民が子どもたちの見本になっていきたい」「子どもたちにとって行事等での成功体験は重要であり、自己肯定感につながる」「教員の負担が大きいと感じる。地域でカバーできる形を探っていきたい」等の貴重なご意見をいただきました。

今後も、地域や保護者との交流・体験活動を大切に、子どもたちを育てていきたいと考えています。

※ 分析の数値は、A「あてはまる」とB「だいたいあてはまる」を肯定的な評価ととらえ、それをもとに分析・検討を行いました。

また、A「あてはまる」+B「だいたいあてはまる」が

80%を上回るものは満足できる = ◎

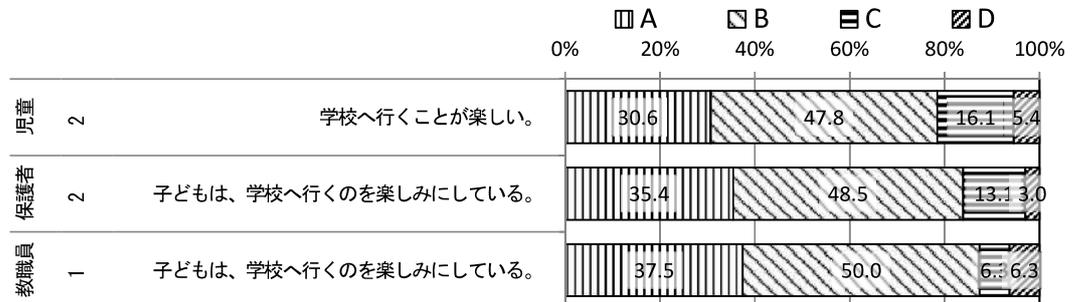
70%を下回るものは改善を要する = ● と考えました。

学校教育活動の評価比較

A=あてはまる(そう思う) B=だいたいあてはまる(だいたいそう思う)
C=あまりあてはまらない(あまりそう思わない) D=あてはまらない(そう思わない)

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	2	学校へ行くことが楽しい。	30.6	47.8	16.1	5.4
保護者	2	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	35.4	48.5	13.1	3.0
教職員	1	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	37.5	50.0	6.3	6.3

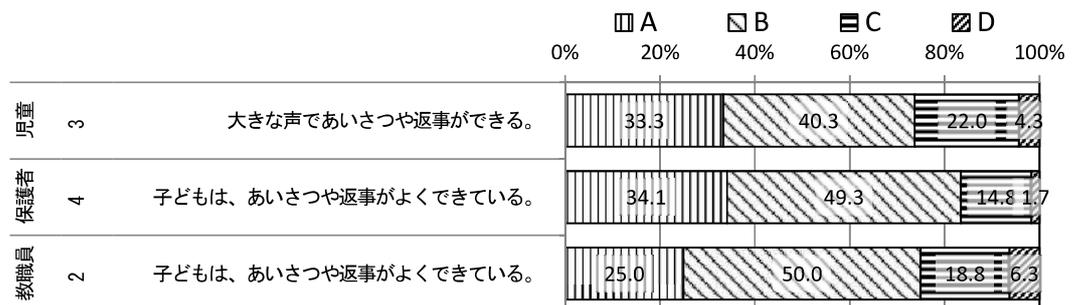
1



80%弱の児童が「学校へ行くことが楽しい」と答えた。保護者は84%で昨年並み、教職員は98%である。実際、「学校の楽しさ」のとらえ方には難しさがあり、楽しいことも苦しいことも混在しているというのが正しいのかもしれないが、それでも学ぶ楽しさや人とかがわり合う楽しさを感じられる場所でありたいと思う。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	3	大きな声であいさつや返事ができる。	33.3	40.3	22.0	4.3
保護者	4	子どもは、あいさつや返事がよくできている。	34.1	49.3	14.8	1.7
教職員	2	子どもは、あいさつや返事がよくできている。	25.0	50.0	18.8	6.3

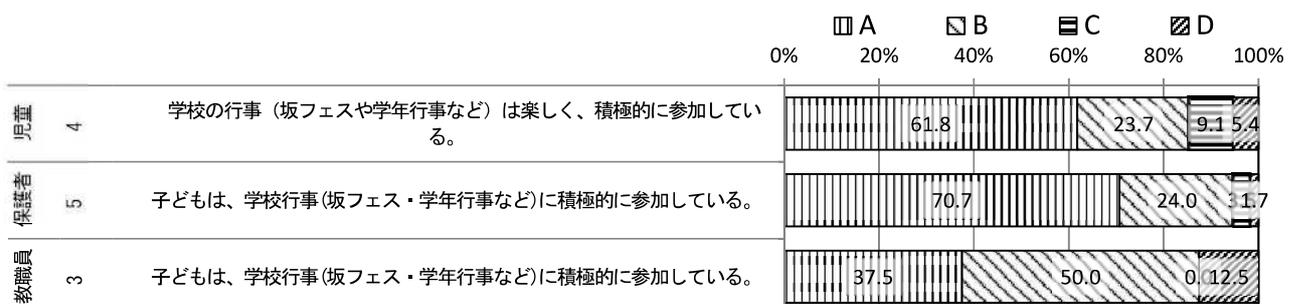
2



約74%の児童が「できている」と答えた。昨年度並みである。保護者は約83%で、教職員は75%である。コロナ禍においても、あいさつの大切さについて指導を続けてきた成果、来校者から「よく挨拶ができる」というお言葉をいただくことは少なくないが、回答の数値としてはそれほどでもない。まだまだできると感じられる。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	4	学校の行事(坂フェスや学年行事など)は楽しく、積極的に参加している。	61.8	23.7	9.1	5.4
保護者	5	子どもは、学校行事(坂フェス・学年行事など)に積極的に参加している。	70.7	24.0	3.5	1.7
教職員	3	子どもは、学校行事(坂フェス・学年行事など)に積極的に参加している。	37.5	50.0	0.0	12.5

3

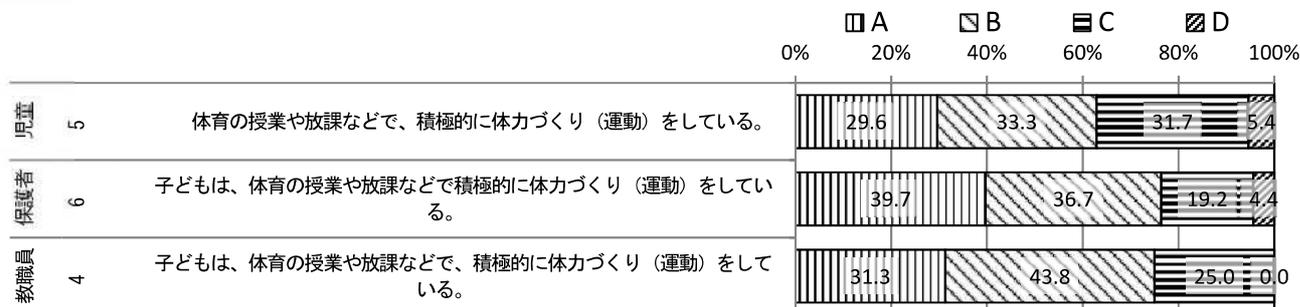


約85%の児童が「楽しい・積極的に取り組んでいる」と答えた。保護者は約95%で、高い評価を得ている。子どもたち一人一人が一生懸命さを表し、輝く時間になっていると感じる。「がんばることってよいことだ」を体感できるよう、これからも大切にしていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	5	体育の授業や放課などで、積極的に体力づくり(運動)をしている。	29.6	33.3	31.7	5.4
保護者	6	子どもは、体育の授業や放課などで積極的に体力づくり(運動)をしている。	39.7	36.7	19.2	4.4
教職員	4	子どもは、体育の授業や放課などで、積極的に体力づくり(運動)をしている。	31.3	43.8	25.0	0.0

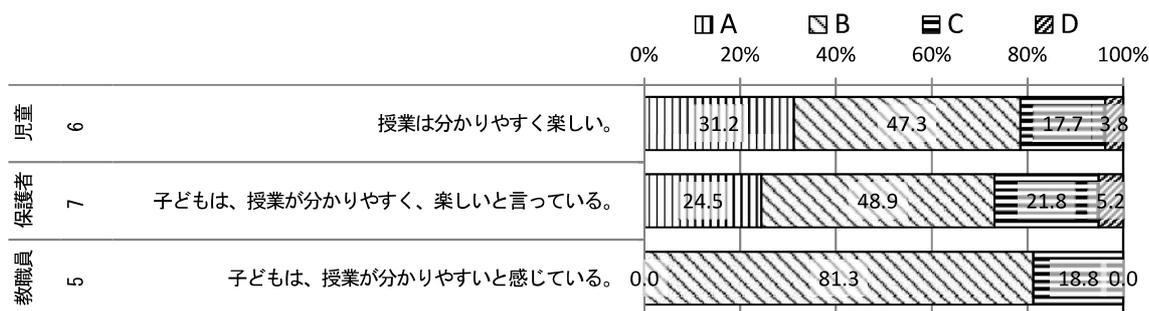
4



児童は66%で、昨年より若干減少した。保護者は76%でこちらも微減、教職員は75%で昨年並みである。朝のきらきらタイムが定着しているが、その他の場面で積極的とは感じていないようである。しかし、放課に外で元気よく遊ぶ児童が増え、マラソン大会も自分の目標達成に向けての取組がよくできていた。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	6	授業は分かりやすく楽しい。	31.2	47.3	17.7	3.8
保護者	7	子どもは、授業が分かりやすく、楽しいと言っている。	24.5	48.9	21.8	5.2
教職員	5	子どもは、授業が分かりやすいと感じている。	0.0	81.3	18.8	0.0

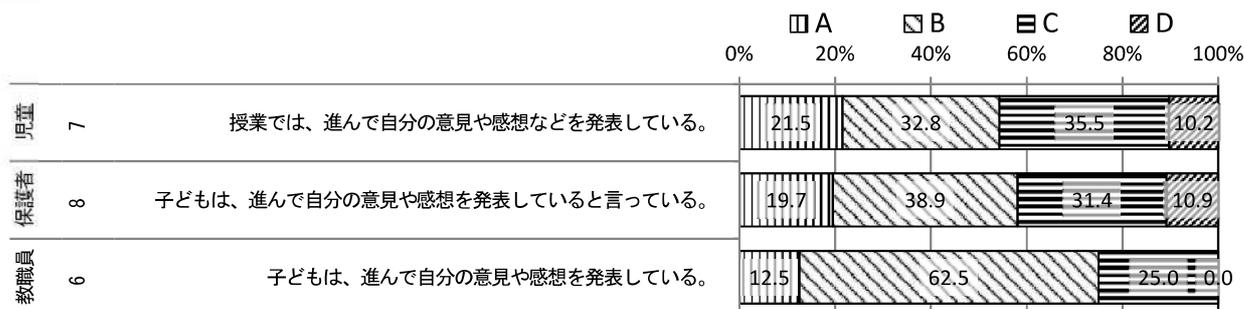
5



約79%の児童が「分かりやすく楽しい」と答えている。昨年度より6ポイント減少である。保護者は約74%で3ポイント増加、教職員は81%（昨年度より6ポイント増加）である。伝え合いに重きを置いたり、タブレットを利用したりなどの工夫のある授業が多くなった。全員参加を常に目指し、分かりやすい授業を展開していきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	7	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。	21.5	32.8	35.5	10.2
保護者	8	子どもは、進んで自分の意見や感想を発表していると言っている。	19.7	38.9	31.4	10.9
教職員	6	子どもは、進んで自分の意見や感想を発表している。	12.5	62.5	25.0	0.0

6

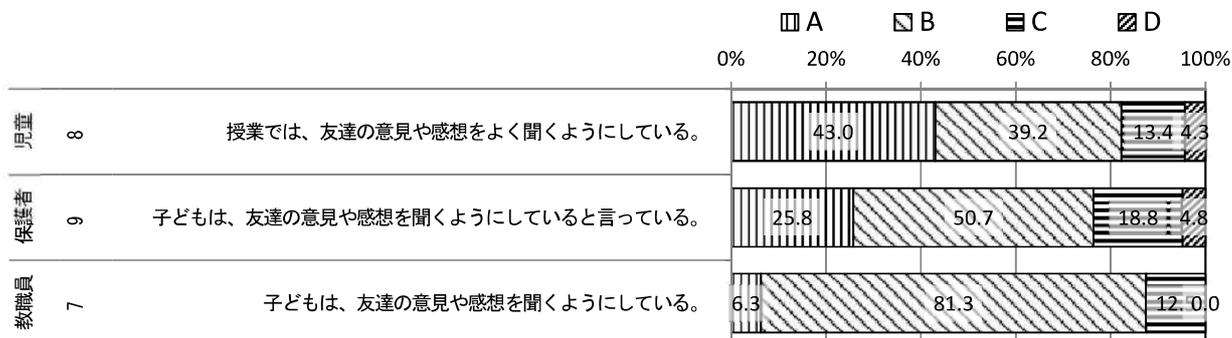


発表形式の授業が随分戻ってきたが、「進んで発言している」と答えた児童は54%（昨年度より2ポイント増加）であった。保護者は59%（昨年並み）。教職員は75%で、25ポイント増加した。進んで発言しようとする意識が高まるよう、発問等も工夫しながら、指導を継続的に行っていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	8	授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている。	43.0	39.2	13.4	4.3
保護者	9	子どもは、友達の意見や感想を聞くようにしていると言っている。	25.8	50.7	18.8	4.8
教職員	7	子どもは、友達の意見や感想を聞くようにしている。	6.3	81.3	12.5	0.0

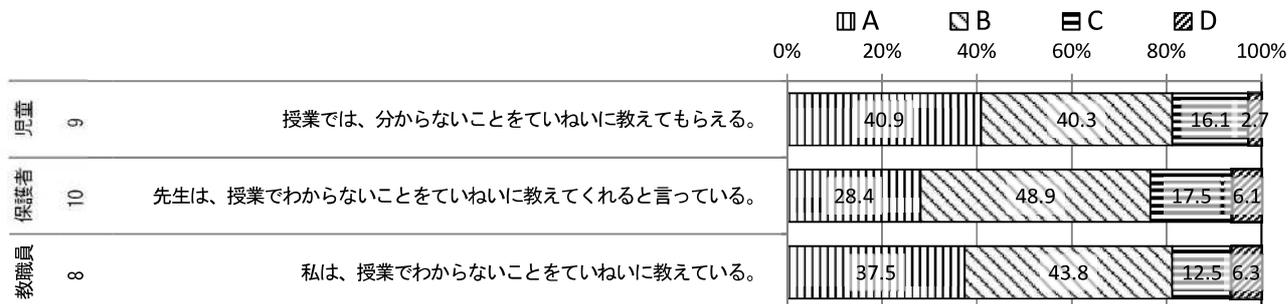
7



約82%の児童が「友達の意見や感想を聞くようにしている」と答えた。昨年度より20ポイント増加している。関わり合いを推奨する上で、しっかり話を聞く姿勢は徹底させたいので、嬉しい評価である。保護者や教職員の回答とには若干のずれがあるが、授業のみならず、全校朝会や集会の場、朝夕の会等、様々な場面でしっかり話が聴けるよう、継続して指導をしていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	9	授業では、分からないことをていねいに教えてもらえる。	40.9	40.3	16.1	2.7
保護者	10	先生は、授業で分からないことをていねいに教えてくれると言っている。	28.4	48.9	17.5	6.1
教職員	8	私は、授業で分からないことをていねいに教えている。	37.5	43.8	12.5	6.3

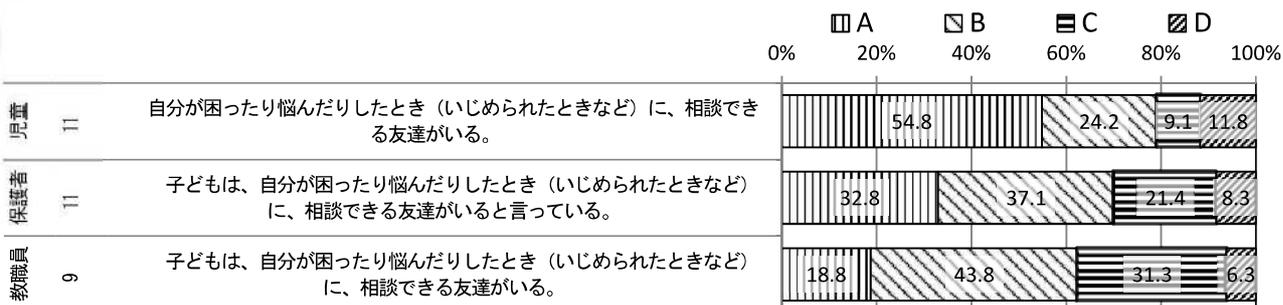
8



約81%の児童が「分からないことを教えてもらえる」と答えた。昨年度より若干減少している。保護者は77%でこちらは昨年並みである。教職員は81%で、子どもとほぼ同じ割合であった。今後も子どもたち一人一人に目を向け、子どもの思いに寄り添った授業ができるように努力したい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	11	自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいる。	54.8	24.2	9.1	11.8
保護者	11	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいると言っている。	32.8	37.1	21.4	8.3
教職員	9	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいる。	18.8	43.8	31.3	6.3

9

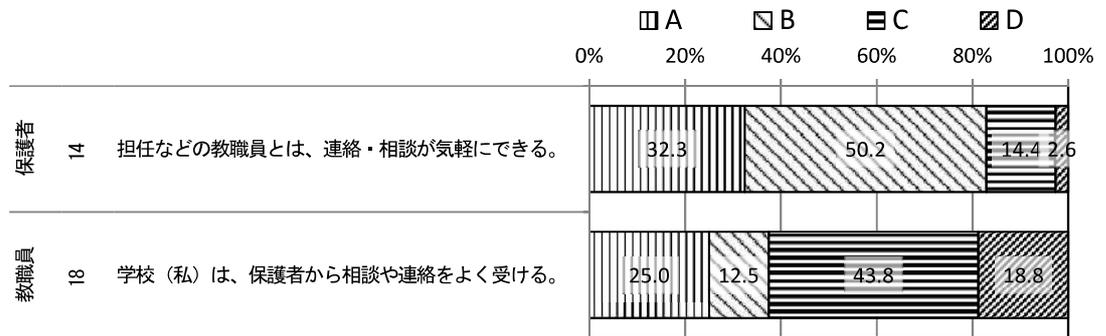


約79%の児童が「相談できる友達がいる」と答えた。昨年度よりやや減少している。保護者は約70%で、こちらも微減である。教職員は約63%と答え、昨年並みである。その心配は子どもの回答の結果から、嬉しい誤算ともとれる。しかし、残りの20%に目を向けた指導が何よりも大切である。これからも、子どもたちの良好な関係づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	12	自分が困ったり悩んだりしたとき、保護者に相談できる。	54.3	23.7	10.2	11.8
保護者	12	子どもは自分が困ったり悩んだりしたときに、保護者に相談できると言っている。	34.1	49.3	14.8	1.7

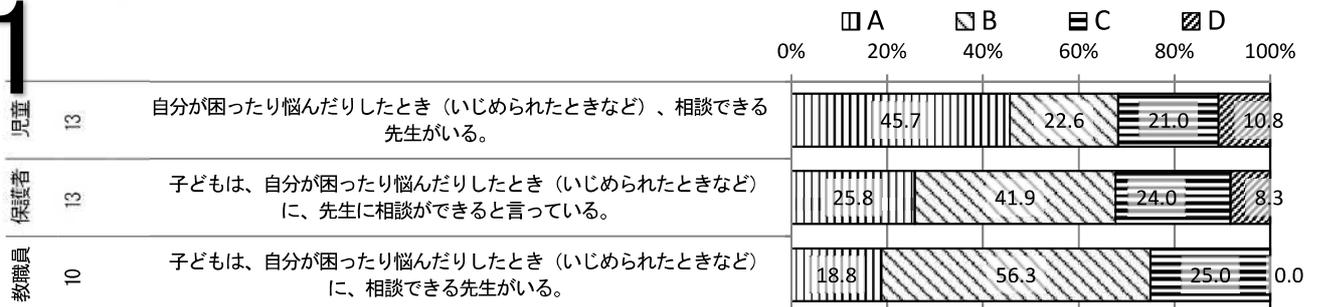
10



相談できるという回答が78%、相談してもらえろが83%であった。「十分にあてはまる」の回答に20ポイントの差があることが気になるが、悩みを抱えた子どもにとって保護者の存在の重要性がうかがえる。親子のコミュニケーションを大切にしながら、学校でも支援をしていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	13	自分が困ったり悩んだりしたとき（いじめられたときなど）、相談できる先生がいる。	45.7	22.6	21.0	10.8
保護者	13	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき（いじめられたときなど）に、先生に相談ができると言っている。	25.8	41.9	24.0	8.3
教職員	10	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき（いじめられたときなど）に、相談できる先生がいる。	18.8	56.3	25.0	0.0

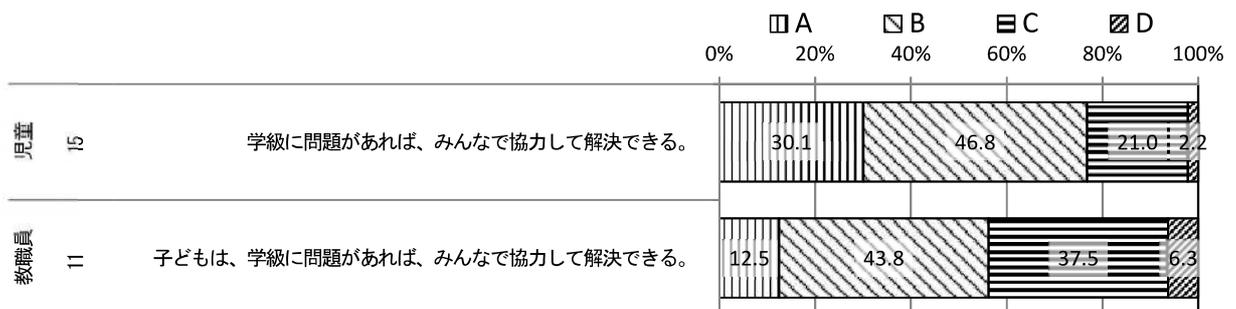
11



約68%の児童が「相談できる先生がいる」と答え、全体としては昨年度並みであった。保護者も約68%、教職員は75%でやや減少である。家庭と学校で意識の差が感じられるので、子どもたちが心を開いて、教職員に安心して相談できるような関係を築いていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	15	学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。	30.1	46.8	21.0	2.2
教職員	11	子どもは、学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。	12.5	43.8	37.5	6.3

12

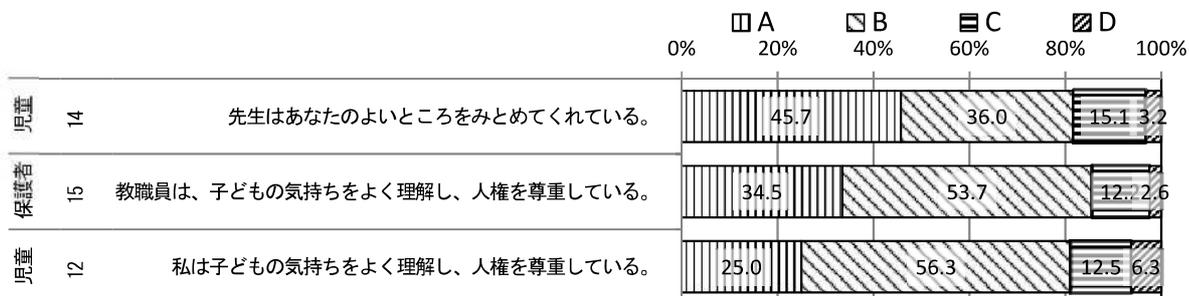


77%の児童が「みんなで協力して解決できる」と答えた。昨年度とほぼ同じ数値である。教職員は56%で、昨年よりおおく減少している。子ども同士の自治意識を高められるように、諸問題を自分たちで解決できるような手立てを教職員が考えるなど、よりよい学級づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	14	先生はあなたのよいところをみとめてくれている。	45.7	36.0	15.1	3.2
保護者	15	教職員は、子どもの気持ちをよく理解し、人権を尊重している。	34.5	53.7	12.2	2.6
教職員	12	私は子どもの気持ちをよく理解し、人権を尊重している。	25.0	56.3	12.5	6.3

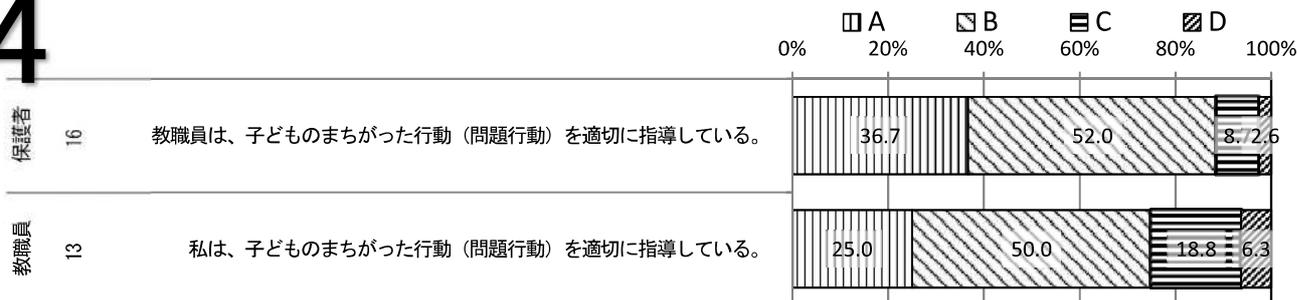
13



「先生は自分のよいところを認めてくれる」と回答した児童は82%で、保護者は88%と高い評価を得た。教職員の回答以上の結果をありがたく感じるとともに、その期待に一層応えていかなくてはと強く感じる。子どもの自己肯定感を高めることは、学校において極めて重要である。子どものよさに気づき、励まし、伸ばしていける教職員集団でありたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	16	教職員は、子どものまちがった行動(問題行動)を適切に指導している。	36.7	52.0	8.7	2.6
教職員	13	私は、子どものまちがった行動(問題行動)を適切に指導している。	25.0	50.0	18.8	6.3

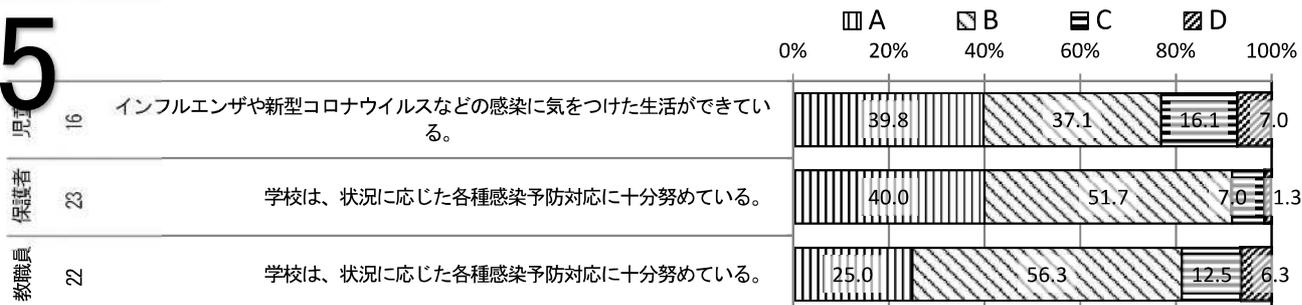
14



約89%の保護者が「適切に指導している」と答え、昨年並みの結果が出た。指導の意図がきちんと伝わるように、今後も子どもの行動をよく把握し、適切に指導できるように努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	16	インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染に気がつけた生活ができている。	39.8	37.1	16.1	7.0
保護者	23	学校は、状況に応じた各種感染予防対応に十分努めている。	40.0	51.7	7.0	1.3
教職員	22	学校は、状況に応じた各種感染予防対応に十分努めている。	25.0	56.3	12.5	6.3

15

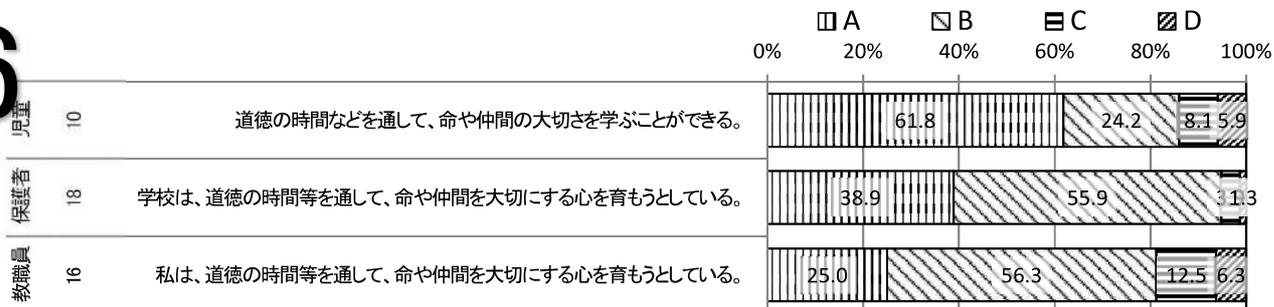


児童の約77%、保護者の92%が「感染に気がつけた生活ができている」「学校は感染予防対応に努めている」と答えた。保護者は昨年度並みだが、児童の意識の低下が気になる。教職員は81%で、こちらも10ポイント程減少している。今後も対策をしっかりととりながら、学校生活の保障をしていきたいと考えている。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	10	道徳の時間などを通して、命や仲間の大切さを学ぶことができる。	61.8	24.2	8.1	5.9
保護者	18	学校は、道徳の時間等を通して、命や仲間を大切にすることを育もうとしている。	38.9	55.9	3.9	1.3
教職員	16	私は、道徳の時間等を通して、命や仲間を大切にすることを育もうとしている。	25.0	56.3	12.5	6.3

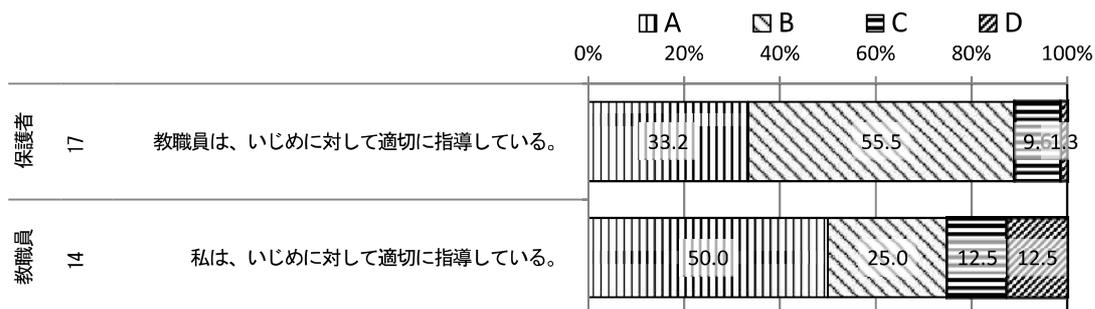
16



児童で86%、保護者の約95%が「適切に指導している」と回答した。道徳の指導がより充実されるよう、教員の力量向上に努めるとともに、学校生活全般で、道徳教育に一層力を入れていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	17	教職員は、いじめに対して適切に指導している。	33.2	55.5	9.6	1.3
教職員	14	私は、いじめに対して適切に指導している。	50.0	25.0	12.5	12.5

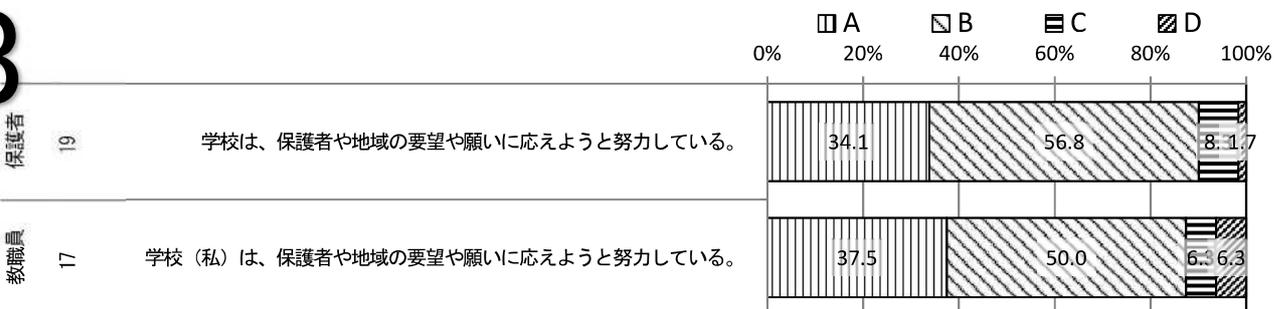
17



約89%の保護者が「適切に指導している」と答え、昨年度より2ポイント増加した。今後も「いじめは絶対に許さない」「いじめは決して起こさせない」を強く意識し、児童の普段の様子を把握したり、児童アンケートを活用したりして適切に指導していきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	19	学校は、保護者や地域の要望や願いに応えようと努力している。	34.1	56.8	8.3	1.7
教職員	17	学校(私)は、保護者や地域の要望や願いに応えようと努力している。	37.5	50.0	6.3	6.3

18

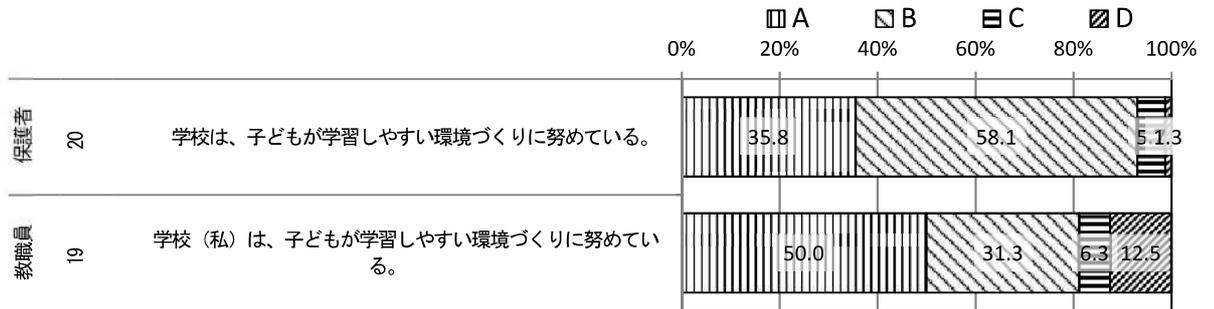


保護者は約91%、教職員は88%が「要望や願いに応えようとしている」と答えた。保護者は微増、教職員は微減である。高い評価を頂いていることを励みにしながら、今後も保護者や地域の声を真摯に受け止め、よりよい学校づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	20	学校は、子どもが学習しやすい環境づくりに努めている。	35.8	58.1	5.7	1.3
教職員	19	学校(私)は、子どもが学習しやすい環境づくりに努めている。	50.0	31.3	6.3	12.5

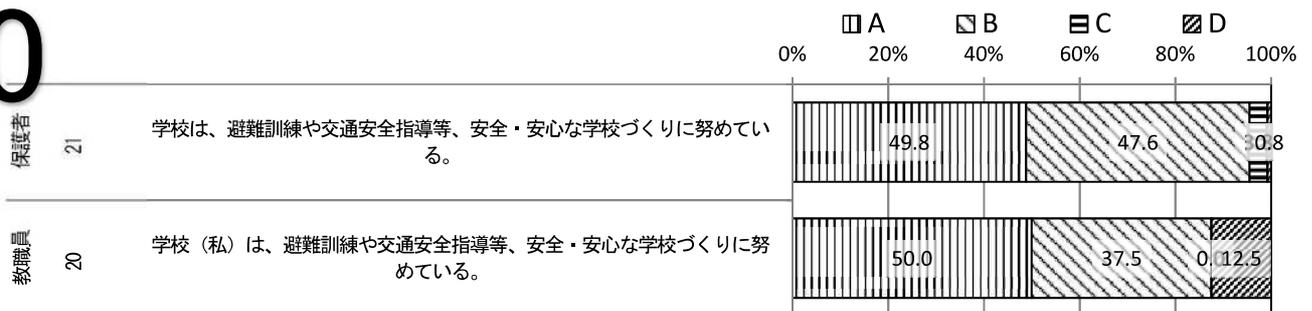
19



約94%の保護者が「環境づくりに努めている」と答えた。昨年度より微増である。教職員は81%であった。今後も保護者の願いに応えられるような環境づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	21	学校は、避難訓練や交通安全指導等、安全・安心な学校づくりに努めている。	49.8	47.6	3.8	0.8
教職員	20	学校(私)は、避難訓練や交通安全指導等、安全・安心な学校づくりに努めている。	50.0	37.5	0.0	12.5

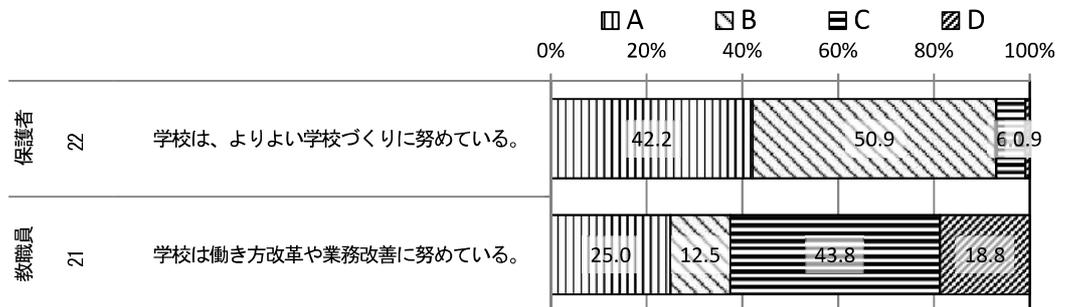
20



約97%の保護者が「安心・安全な学校づくりに努めている」と答えた。今後も危機管理や安全教育に力を入れ、子どもたちの安全を考えた学校づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	22	学校は、よりよい学校づくりに努めている。	42.2	50.9	6.1	0.9
教職員	21	学校は働き方改革や業務改善に努めている。	25.0	12.5	43.8	18.8

21

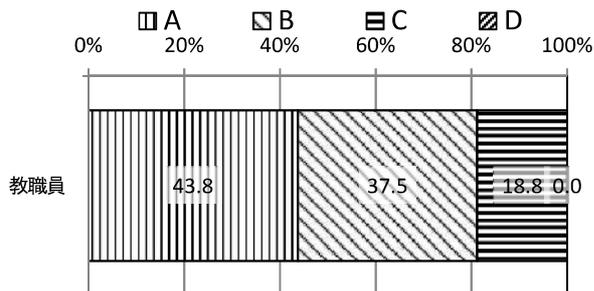


約93%の保護者が「よりよい学校づくりに努めている」と答えた。この質問の始まった4年前から続けて、高い支持をいただいている。教職員の働き方改革に関する意識は、まだまだ自身の改革や業務改善が整っていないと感じているようである。多忙化解消をすることで、教職員がいつも元気に子どもたちへの指導ができるにしていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
教職員	15	私には、自分の悩みや相談を聞いてくれる上司、同僚がいる。	43.8	37.5	18.8	0.0

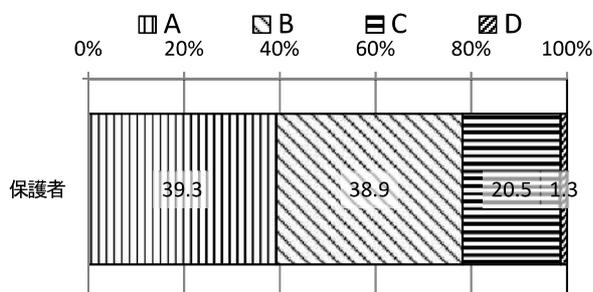
22



約81%の教職員が「悩みや相談を聞いてくれる上司、同僚がいる」と答えた。風通しのよい環境をつくるのが、教職員の心身の健康につながり、子どもへの適切な指導につながると考えられる。お互いが気軽に声をかけられる職場づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	3	子どもは、毎日学校での出来事を話す。	39.3	38.9	20.5	1.3

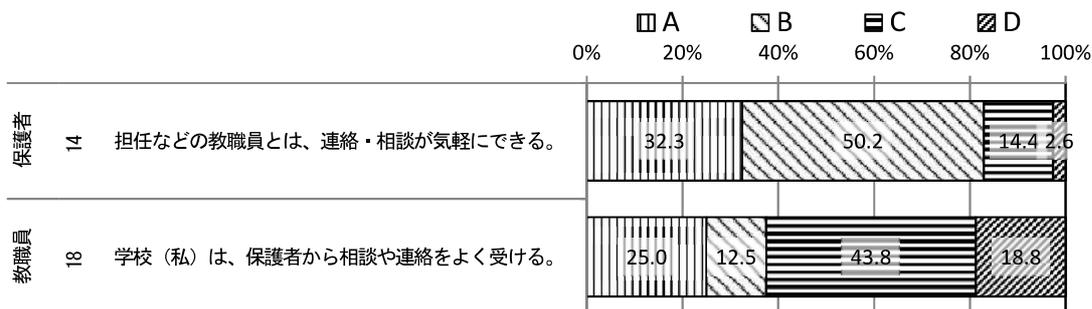
23



毎日学校での出来事を話すという回答がおよそ8割であった。親子のコミュニケーションを図るとともに、学校のことを知っていただくことが、健全な子どもの育成には必要と考える。子どもが話をしたくなる魅力ある学校づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	14	担任などの教職員とは、連絡・相談が気軽にできる。	32.3	50.2	14.4	2.6
教職員	18	学校(私)は、保護者から相談や連絡をよく受ける。	25.0	12.5	43.8	18.8

24



保護者の83%が「気軽に相談できる」と回答している。しかし、何でもすぐに相談している訳ではないことが、教職員の回答からもうかがえる。子どもの健やかな成長のためには学校と家庭の連携は不可欠である。良好な関係づくりとその継続に努めていきたい。